



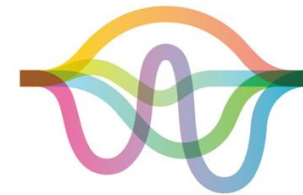
KYOKUYO

サプライチェーンにおけるカーボンニュートラルへの取り組み



旭陽電気株式会社

本社 : 山梨県韮崎市
拠点 : 本社、韮崎工場、宮城工場
創業 : 1968年
従業員数 : 630人以上
年商 : 104億円 (2025年3月期)
事業内容 : ハーネス・ケーブル製造
EMS事業 (半導体製造装置)
社会インフラ事業
取得 : ISO9001、ISO14001
Nearly ZEB認証



WELL LABO

1. KYOKUYOの理念について

企業理念

Corporate Philosophy

MISSION

電気を繋ぐ技術と
ものづくりで、
社会の進歩を支える。

私たちKYOKUYOは、電子部品（ケーブル・ハーネス）の接続技術とEMSによる一貫製造を軸とし、社会の進歩を開発・生産するお客様を支える、「万能コネクターカンパニー」です。

電子機器・製造装置メーカー様の、ケーブル・ハーネス、部品、モジュール、機器などあらゆる物を考えてつくり、それらをつなぎ合わせて命を吹き込むところまですべて、私たちの仕事です。

設計、部材調達、製造、現地据付、調整、メンテナンスまでを一貫して行うKYOKUYOだからこそ、社会の進歩を支える万能なパートナーとして課題解決を実現します。

私たちは、この技術とものづくりを通して世界中の技術発展に貢献します。



VISION

目指すべき姿

社会の進歩には、
「旭陽クオリティ」
が必要だ。

OUR SLOGAN

合言葉

あさひの
旭をのぼらせ、陽を当てよう

KYOKUYOを、日の出の太陽のようにみんなが高みにのぼらせよう。

そうすることで、働く人に陽があたり、

働く人が輝き、自分たちに誇りを感じるようになる。

そして、その輝きがまたKYOKUYOグループを高みにのぼらせ、

さらに働く人を明るく照らしていく。

そんな好循環を生み出す組織を目指そう。



VALUES 共有したい価値観

1

私たちは、
未来づくりの
パイオニア。
パートナー！



2



課題解決のアイデアは、
常に現場にある。

3



「できない」を
「やる」から
意味がある。

4



見えないところで、
かっこいい
仕事を
する。

5



「はやさ」は、
クオリティの
ひとつ。

PRINCIPLE 守りたい行動規範

1



2S(整理・整頓)
ができれば、
すべてできる。

2



やる前に考える。
やりながら考える。
やった後に考える。

3



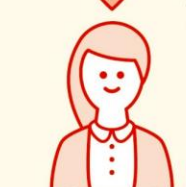
「それだけの人」
に取まらない。

4



ひとりより、
みんなで作る

5

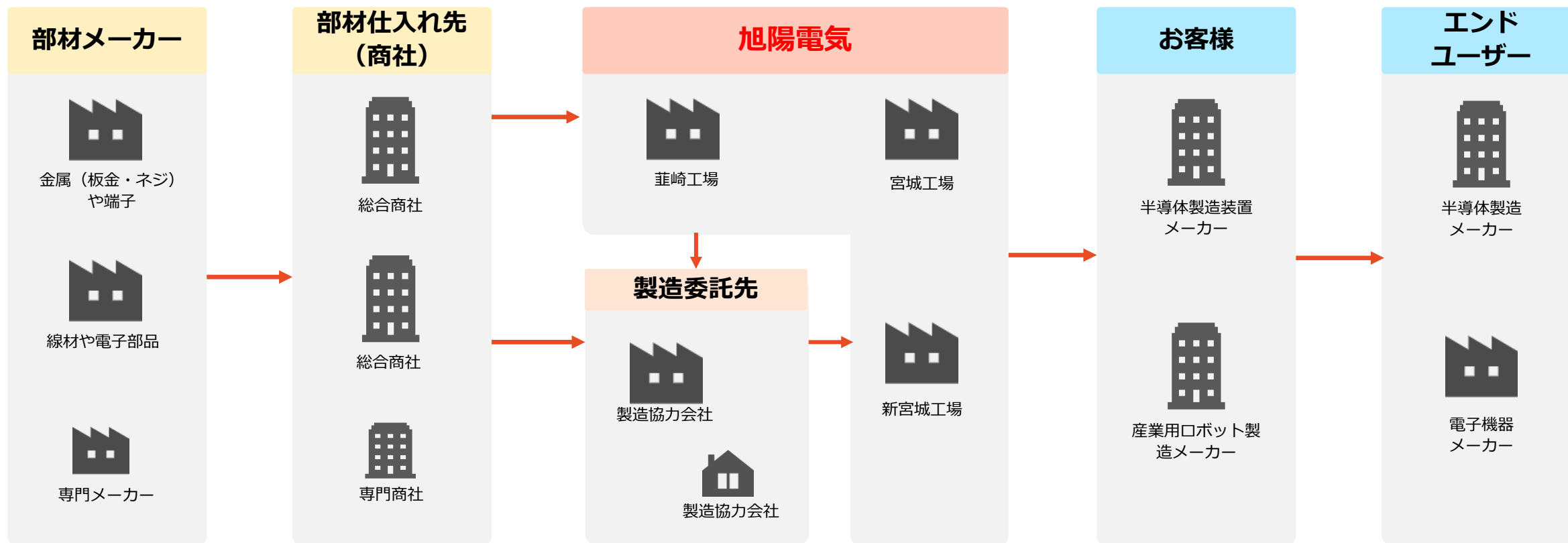


まずは、自分
が
幸せになる。

2. サプライチェーンにおける立ち位置

当社は上流・下流共にサプライチェーン上の取引がある

- **上流** : ケーブル・ハーネス部材のサプライヤー、フレーム部材のサプライヤー
- **下流** : 半導体製造装置メーカー、産業用ロボット製造メーカー



3. なぜCNに取り組むのか

外部理由

- 業界成長に伴うCO2排出量の増加
- サプライチェーンを巡り当社事業に環境影響を与える
- 顧客からの要請

内部理由

- CSRテーマ「環境」の推進
(地球、社会、職場環境への配慮)
- 企業価値観の実践 **「できない」を「やる」から意味がある。**

4. サステナブル推進室について

① ネットゼロ

- ・ 外部MTGを通じたの知識向上
- ・ 各使用量のデータ収集（請求書ベース）
- ・ CO2排出量算出
- ・ 創エネ、省エネ対策
- ・ 社員研修
- ・ サプライヤーへのアンケート実施
- ・ サプライヤーへの説明会実施

② 環境調査

- ・ 含有物質調査
- ・ 紛争鉱物調査
- ・ 調達関連調査
etc.

③ その他

- ・ RBAやBCPに
関する企画推進

地球、社会、職場など、当社が関わる様々な単位での環境に目を向け活動する

5. サプライチェーンにおけるCNへの取組み全体像

サプライチェーン上流と下流への取組みを実施

- ① サプライチェーン内でのCNに関する情報共有や各種連携
- ② 物流業者を交えたサプライチェーンでの共同配送



6. ① サプライチェーン内でのCNに関する情報共有や各種連携

上流（対サプライヤー）

- ・ ネットゼロ教育資料の展開
- ・ 算定方法等の研修実施

- ・ ネットゼロ進捗確認の
アンケート実施

- ・ 課題の洗い出し
- ・ 対策の検討・実施

説明会・教育

アンケート

ミーティング

下流（対お客様）

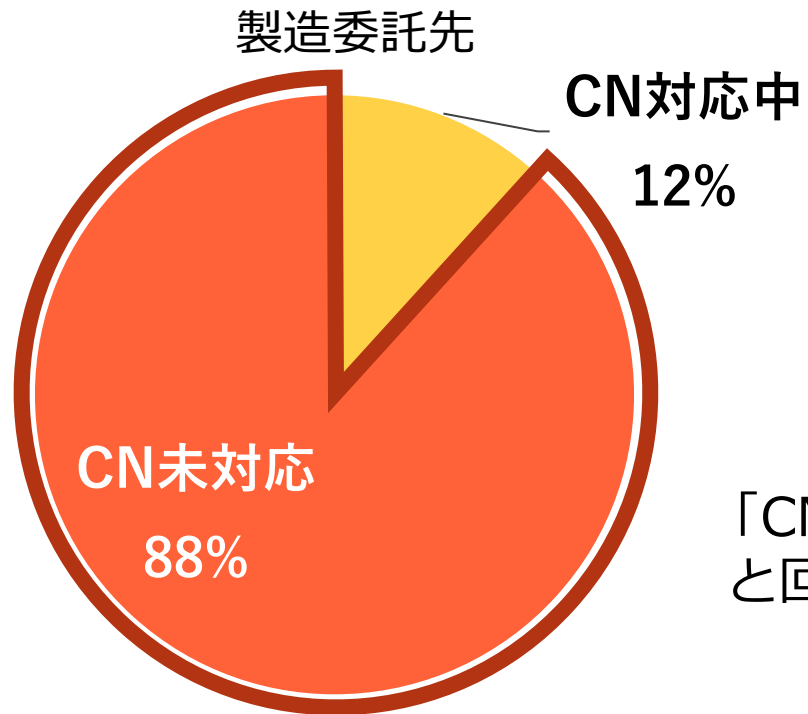
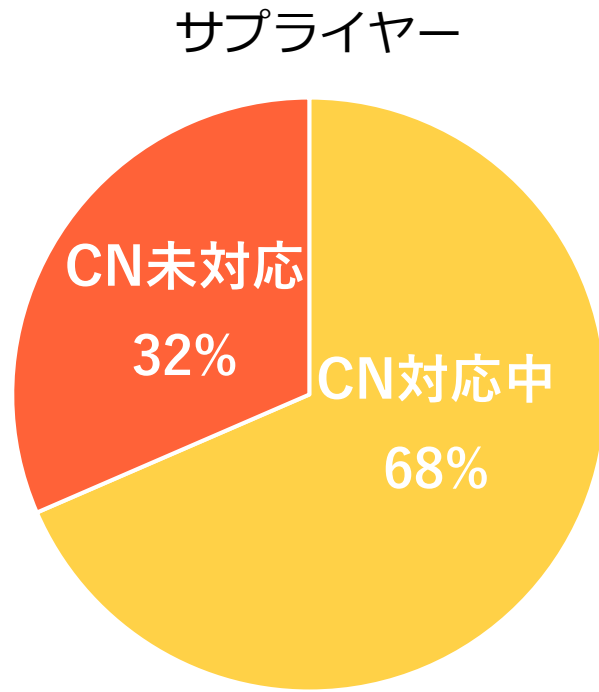
- ・ 環境説明会への参加
- ・ 算定方法の共有

- ・ 排出量アンケートへの回答
- ・ 顧客のサプライヤー表彰での
評価項目化

- ・ 進捗報告会の実施
- ・ 算定方法定義の認識合わせ

6. ① サプライチェーン内でのCNに関する情報共有や各種連携

サプライヤーの現状（アンケート結果）



88%

「CNに向けた取り組みをしていない」と回答した製造委託先

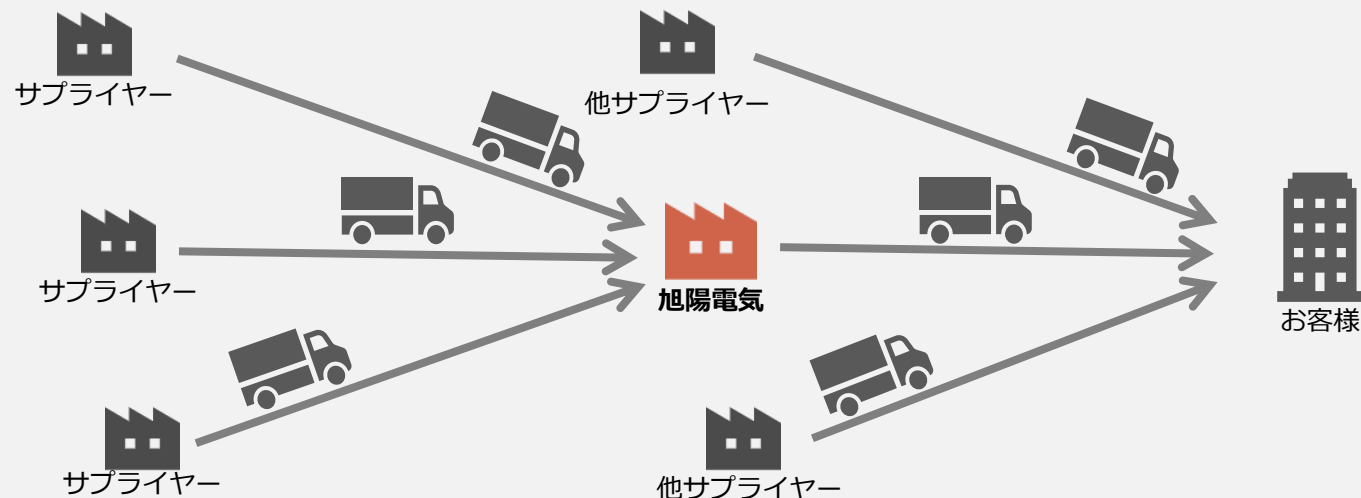
サプライヤーの声

- ・ 小規模経営のため、すべてにおいて余裕がない
- ・ 何から始めれば良いか指導してほしい
- ・ 中小企業への波及には時間が掛かる
- ・ 導入資金の支援がほしい

7. ② 物流業者を交えたサプライチェーンでの共同配送

【現状】 個別配送

各社が個別に
物流便手配
(低積載・多頻度)

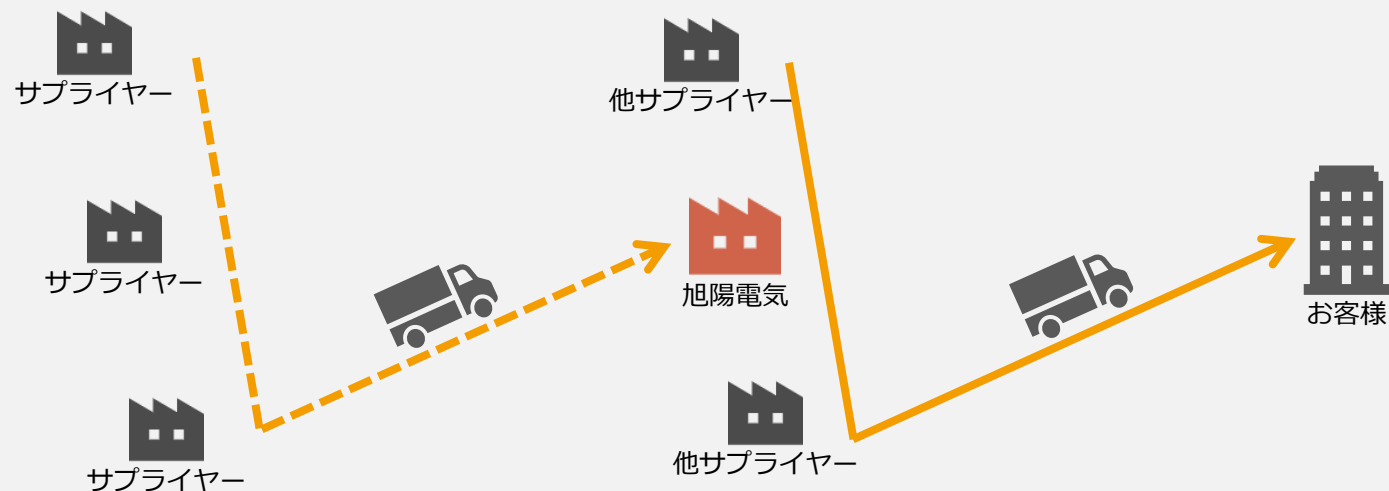


【目標】 共同配送

各社が連携し
物流便集約
(高積載・低頻度)

連携による共同配送(計画中)

顧客への共同配送(取組中)



8. サプライチェーンにおけるCN取組みに関する3つの課題

課題1

【情報・知見】

相談先、支援先が不明

費用負担

データ収集のノウハウ不足

課題2

【取組みメリット】

メリットの見えにくさ

認知不足の影響

課題3

【算定基準】

多様な算定基準

基準変更への対応

9. 今後の方向性

長期的視点でロードマップを策定予定

- 2040年のNET ZERO目標に向け、具体的なアクションプランを検討。
- 山梨県や取引銀行等から幅広く削減策や連携先を紹介してもらい、各施策実施を検討していく。



9. 今後の方向性

**ネットゼロ達成は、
サプライチェーン上の各個社だけでは難しい。**

**地方自治体（県や市）や取引銀行、政策機関等と
協力・連携し地域一体となり
ネットゼロ達成を目指します。**